

音楽 I 学習指導案

指導者 村田 孝夫

- 1 題材名
ジャズとクラシックとの融合～シンフォニック・ジャズの世界～
- 2 目標
シンフォニック・ジャズの音色や表現、音楽の雰囲気に関心をもち、楽曲のもつ面白さやよさを創造的に味わう。
- 3 教材
「パリのアメリカ人」、「ラプソディー・イン・ブルー」（J. ガーシュイン作曲）

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
①楽器の音色やリズム、旋律による音楽の雰囲気に関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②楽曲の歴史的背景や作曲者の目指した表現について関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	①楽器の音色、リズム、旋律を知覚し、それによって生み出される雰囲気を感受しながら、楽曲のもつ面白さやよさを創造的に味わっている。 ②楽曲の歴史的背景や作曲者の目指した表現について、理解を深めながら鑑賞している。

5 指導と評価の計画（3時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	題材の評価規準
第一次 (1) 本時	○シンフォニック・ジャズの面白さやよさを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・弦楽合奏曲とジャズヴァイオリンの曲の比較鑑賞（一斉） ・「パリのアメリカ人」のDVD鑑賞（一斉） 	ア-① (観察、ワークシート) エ-① (ワークシート)
第二次 (2)	○楽曲の歴史的背景や作曲者の目指した表現について理解する。 ○グループでの話し合いや紹介文の作成を通して、楽曲の面白さ、よさを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ラプソディー・イン・ブルー」のDVD鑑賞（一斉） ・グループでの話し合い（グループ） ・紹介文の作成（個人） 	ア-② (観察、ワークシート) エ-② (ワークシート)

6 本時の展開（第一次の第1時）

- (1) 目標 音色を手掛かりに、全体が醸し出すサウンド感を感じ取り、シンフォニック・ジャズの面白さやよさを味わう。

(2) 展開

配時	学習内容・活動	指導上の留意点（◆評価規準）
導入 (10分)	1 本時の目標・学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(シンフォニック・ジャズ) どんな音楽かな？</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の目標について分かりやすく説明し、内容に関する具体的なイメージを持たせる。 ・鑑賞する上でポインツを具体的に提示し、鑑賞活動に対する意欲を高める。
展開 (40分)	2 ヴァイオリンの音色の違いを聞き取り、クラシックとジャズのサウンドの違いについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ディベルティメントニ長調」（モーツアルト作曲）と「慕情」（ジャズヴァイオリンニスト寺井尚子の演奏）の2曲を聴き比べる。 3 シンフォニック・ジャズの特徴をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・「パリのアメリカ人」（J. ガーシュイン作曲）をDVD鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞する中で感じ取ったことをワークシート【別紙 ワークシート1】に記入させる。 ◆楽器の音色やリズム、旋律による音楽の雰囲気に関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。（ア-①：観察、ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から感じ取った特徴や印象をまとめ、自分がこれまでに抱いていたクラシック音楽とシンフォニック・ジャズの世界との違いに気付かせる。【別紙 ワークシート2】 ◆楽器の音色、リズム、旋律を知覚し、それによって生み出される雰囲気を感受しながら、楽曲のもつ面白さやよさを創造的に味わっている。（エ-①：ワークシート）
まとめ (5分)	4 次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容について振り返り、その上で、次の教材である「ラプソディー・イン・ブルー」（J. ガーシュイン作曲）の鑑賞や、その紹介文の作成に向けての動機付けをする。

【ワークシート】

【第1回 音楽鑑賞】

テーマ : ^①() と ^②()との融合
 ~ ^③() の世界~

<課題1>

○次に鑑賞する2曲について、(ア) ヴァイオリンの音色感、(イ) 全体が醸し出すサウンド感、(ウ) リズム、(エ) 旋律(メロディー)、の4つの点についてあなたが曲から感じ取った特徴や印象を答えよ。その上であなたはどちらの曲を好むか、具体的な理由をあげて答えよ。

(1曲目) W.A.モーツアルト (1756~1791) 作曲

「ディヴェルティメント二長調 KV136」第1楽章 Allegro (4分11秒)

演奏：ルツェルン弦楽合奏団

(2曲目) 「慕情」(5分15秒) 演奏：寺井 尚子(ヴァイオリン)

		あなたが曲から感じ取った特徴や印象	
		1曲目「ディヴェルティメント」	2曲目「慕情」
ア	ヴァイオリ ンの音色感		
イ	全体が醸し 出すサウン ド感		
ウ	リズム		
エ	旋律(メロデ ィー)		

どちらの曲を好むか？

曲名：	理由
-----	----

<課題2>

○次に鑑賞する「パリのアメリカ人」を作曲したJ.ガーシュウィンは、従来のクラシック音楽とジャズの音楽とを融合してできた新しいジャンル「シンフォニック・ジャズ」を創り上げた作曲家である。この曲をDVDで鑑賞して (ア) 全体が醸し出すサウンド感, (イ) リズム, (ウ) 旋律 の3つの点についてあなたが曲から感じ取った特徴や印象を答えよ。その上で、この曲の中であなたがこれまでクラシック音楽について抱いていたイメージと異なる印象を受けたところがもしあったら、それについて答えよ。

(3曲目) ジョージ・ガーシュウィン(1898~1937)作曲

「パリのアメリカ人」(約21分)

指揮 小澤 征爾 演奏 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

「パリのアメリカ人」あなたが曲から感じ取った特徴や印象		
ア	イ	ウ
全体が醸し出すサウンド感	リズム	旋律

これまでクラシック音楽について抱いていたイメージと異なる印象を受けたところ

【第1回 音楽鑑賞（その2）】

テーマ：^①（ ）と^②（ ）との融合
～^③（ ）の世界～

<作曲家 ジョージ・ガーシュウィン（1898～1937）について>

ガーシュインは20世紀に活躍した^④（ ）出身の作曲家で、1898年^⑤（ ）に生まれる。幼少時代から家庭にピアノがあり、兄がピアノ演奏していたのを聴き、音楽に興味を持ちはじめる。15歳で高校を中退し、ニューヨークにあった^⑥（ ）と呼ばれた通りにあったポピュラー音楽の楽譜屋街の音楽出版社にて、楽譜を選んでいる客にピアノで弾いて聞かせるという^⑦（ ）という職に就く。

仕事上音楽関係者と知り合う機会が多かったガーシュインは、ポピュラー音楽指揮者である^⑧（ ）に出会い、楽団で演奏するための作品を依頼されることとなる。その時作曲されたのが本日鑑賞する1924年作曲の^⑨（ ）である。この曲の中で用いられた、ジャズの手法とクラシックとの融合というガーシュインによって生み出された新たなスタイルは^⑩（ ）と呼ばれ、20世紀アメリカで流行した。なお、この曲は主要な旋律はガーシュイン自身による作曲、オーケストレーションはホワイトマン楽団に所属していた作曲家^⑪（ ）によって行われた。

<課題3>

○本日鑑賞する「ラプソディー・イン・ブルー」について、(ア) ジャズトリオ（ピアノ・ベース・ドラム）のサウンド感、(イ) オーケストラ全体が醸し出すサウンド感、(ウ) リズム、(エ) 旋律（メロディー）、の4つの点についてあなたが曲から感じ取った特徴や印象を答えよ。その後、グループ活動を通じてそれらの印象をまとめ、上記の4点について「キーワード」を作成し、そのキーワードをもとにこの曲の紹介文を完成させよ。

（鑑賞曲目）ジョージ・ガーシュウィン（1898～1937）作曲

「ラプソディー・イン・ブルー」（約20分）

指揮 小澤 征爾

ピアノ マーカス・ロバーツ ベース ローランド・ケリン トランブ ディエイジン・マクカリス

演奏 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

		あなたが曲から感じ取った特徴や印象	
		メモ欄	キーワード記入欄
ア	ジャズトリオ(ピアノ・ベース・ドラム)のサウンド感		
イ	全体が醸し出すサウンド感		
ウ	リズム		
エ	旋律(メロディー)		

「ラブソディー・イン・ブルー」のキーワードと紹介文

*グループでの話し合いを通じて、4つの点について自分たちの考えをまとめ、キーワードをまとめ、それをもとにこの曲の紹介文を完成させよ。

		グループで話し合ったキーワード
ア	ジャズトリオ(ピアノ・ベース・ドラム)のサウンド感	
イ	全体が醸し出すサウンド感	
ウ	リズム	
エ	旋律(メロディー)	

.....
.....
.....
.....